

第5章

診断士資格を家業の経営に生かすには ——経営者の視点を磨く



渡邊 大輔／溝上 愛

本章では、自身の家業の経営にあたって診断士資格を活用する方法について話し合っていきます。

1. 診断士として承継者を支える

渡邊：私は経営者兼診断士を目指していますが、溝上さんは診断士として会社を支えることを考えられています。方法はさまざまですが、診断士の資格取得により将来の会社の発展の道が見えてきたのでは？

溝上：そうですね。診断士の資格を取得する過程で得た知識や考え方は将来の企業経営にとっても役立つと思います。私は、状況を客観的に分析する力がつき、自身の将来を考えて学びたいこと、身につけるべきことが多くあるなど感じています。

渡邊：溝上さんが承継者ではなく、診断士として家業を支えていくという決断をしたのは素晴らしいと思いました。

私が家業を継いで社長になったときのことを考えると、自分とは違う視点で会社のことを考えてくれる右腕の存在が欲しいと思いますし、そういう人材が診断士の資格を持っているのは心強いですね。

溝上：私もそれは同感です。自身が社長だと診断士のように客観的な判断は難しいかもしれないと思います。

渡邊：私が家業の承継を考えるうえで悩んでいるのは、幹部社員に信頼されるかどうか

ということです。幹部社員は私を幼い頃から知っているような人たちばかりで、自分のことを「お坊ちゃん」として見ていると思います。そういう中で組織を作る場合、診断士のサポートが欲しいと思います。多分溝上さんの弟さんも同じようなことを考えているのではないのでしょうか。

溝上：そうですね。弟も息子という理由で家業を継いでも人がついてくるかという懸念が多少はあるようです。そのために今の私にできるのは、本社と第2工場の統一感を高めることかなと考えています。いずれは父や弟の手助けをして中長期ビジョンを策定し、妹夫婦とも共有して良い形の同族経営を目指したいと考えています。

2. 経営者兼診断士での資格の生かし方

溝上：渡邊さんは「家業の業界について、まったく知識がない」と認めつつ、事業承継の決断をされています。リスクもある大きな決断だと思いますが、具体的な計画などはあるのですか？

渡邊：事業承継の時期は今から2年後くらいを考えています。現在の業務の継続のみでは生き残れないのではないかという危機感を感じていますので、自分は経営者兼診断士として新たな事業の立ち上げなどを検討していきたいと考えています。

溝上：そのように家業の状況を客観的に分析

できるのも、診断士の勉強をしたからこそできることの1つかもしれませんね。

渡邊：そうですね。異分野での経験を家業に生かすことでのシナジー効果やリスク分散を期待しています。

溝上：そうは言っても異分野での経験を家業に生かすとなると簡単ではないと思います。渡邊さんはどのようにお考えですか？

渡邊：第2章で書いたように物流コンサルティング事業の立ち上げが当面の目標です。ただし、それ以外にも実家の会社で新しいことができるのではと考えています。たとえば、ベトナム語を学んでいた経験を生かした、ベトナム人技能実習生の受入れを通じた事業展開などです。まだ具体的なイメージはできていないのですが、可能性は無限に追求できると考えています。

溝上：その中で診断士の資格をどのように活用するつもりですか？

渡邊：診断士の資格取得の最大の魅力は人脈の拡大だと思います。興味のある分野に積極的に顔を出し、できる限り多くの方と交流を図りたいと思っています。そのような場で、事あるごとに「物流」や「ベトナム」と口にしてしていると、不思議と同様の興味を持っている人と出会うことができます。実際、ベトナム関連の事業を行っている方に何人もお会いしてきました。そういう方たちと交流を深めることで、新たな機会も見えてくるのではと考えています。

3. 診断士資格で経営者の視点を磨く

渡邊：診断士の資格取得を通じて良かったのは、経営者の視点から物事をとらえられるようになり、日々の業務への取組み方が変化したことです。1日1日が成長の場であると考えられるようになりました。溝上さんはいかがですか？

溝上：私の場合は日常業務の社内での位置づけを意識するようになりました。一步引いて「今の業務は会社全体の戦略でどういう

位置づけなのか」と考えることで、業務で求められるレベルや物事の本質を考えて行動するようになりました。経営者の視点でほかの業務や身の回りの現象もとらえる癖がついてきました。

渡邊：日常業務に埋もれず、常に冷静に会社の状況を考えられているということですね。私も全体最適の視点を持てるようになってきたことは感じています。自社のみでなく、サプライヤーや代理店も含め関連者全体を見ながら、改善プロジェクトを動かすことを意識するようになりました。

溝上：なるほど。さまざまな人の立場を理解しようとする姿勢や、それを生かして人を巻き込んでプロジェクトを進めるという経験は、将来経営者になるときに大いに役立つそうですね。

渡邊：診断士としての活動を通じて、将来の会社経営に役立つスキルやノウハウは無数に得られると思います。家業を持つ診断士が集まるコミュニティや研究会を診断士協会の中で立ち上げていくのもおもしろいのではと思っています。

溝上：それは良い案ですね。ノウハウや同じ悩みを共有することで家業に向き合う診断士を増やしていきたいですね。



左から溝上愛氏、渡邊大輔氏